

2023年4月20日 NO.134号

障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会（性教協）本部・事務局

〒151-0071 東京都渋谷区本町1丁目7番16号 初台ハイツ1006号

HP <https://shogaiji-sha.seikyokyo.org>



●人間発達と性を語る「第28回障害児・者性教育セミナー」報告	1
山口智美さん講演「性教育バッシングと宗教右派」とシンポジウム	1
分科会：小学校特別支援学級「キラキラタイム」実践発表	4
分科会：青年成人期の学びの場での性教育実践	5
●生きる力をはぐくむ法教育 ぼぼろスクエアでの実践●本の紹介	6
●新連載「軽度知的しうがいの青年たちの恋愛、性交、出産、子育て」(第1回)	8
●「障害と生きる」青年たちの今から その6	10
●お知らせコーナー	13

特集

人間発達と性を語る 「第28回障害児・者性教育セミナー」報告

性教育セミナー全体会・シンポジウム・分科会を終えて

2月23日参加者95名で「第28回障害児・者性教育セミナー」が実施されました。

大きなテーマとしては「あらためて性教育バックラッシュを問い合わせ、包括的性教育への展開を探る」であり七生養護事件、性教育バッシングの裏側、統一教会問題、家族主義等にふれながら講演会は進行しました。講師は山口智美さん（文化人類学者、モンタナ州立大学社会学准教授）（モンタナ州からリモートで講演）で講演テーマは「性教育バッシングと宗教右派」でした。

その後のシンポジウムでは、日暮かをるさん（元七生養護学校事件裁判原告団長）、支援学級・支援学校の教諭二人、伊藤修毅さん（日本福祉大学准教授）の4人に山口智美さんが加わり、教育現場の今現在おかかれている様子・性教育実践の深刻さ困難さ等を話し合いました。

A) 山口さんの講演は、大きく以下の3つで構成されていました。

1. 右派による「バックラッシュ」と性教育への攻撃について

人権に基づく運動が前進すると、右派によるバッ

ククラッシュ（反動）が繰り返された90年代からの歴

史。世界的に90年代フェミニズムが主流化し、カイロ国際人口開発会議で、性と生殖に関する健康／権利と女性のエンパワーメントが促進され、「ジェンダー」の言葉が登場。男女共同参画社会基本法が制定され、1992年「性教育元年」となるや、性教育バッシングや、山谷えり子議員の国会質問から『思春期のためのラブ＆ボディBook』回収、そして七生養護学校性教育バッシングが。2005年、安倍晋三座長らが自民党「過激な性教育・ジェンダーフリー教育実態調査プロジェクトチーム」をつくり、性教育を削除していました。そうした役割を果たす構図として、宗教右派（日本会議や統一教会など）、自民党などの右派議員、右派知識人、運動家、ジャーナリスト、市民、右派メディア、ネット等との関係も明らかにされました。

2. 「家庭教育」と「青少年健全育成」について

2006年教育基本法改正で家庭教育の項目が入ると、親学（教育の原点は家庭、親は教育の第一義的責任を負う、母性と父性の役割、親の心構えが大事）を、日本財団、日本青年会議所、PTAなど様々な民間組織を使って推進しています。熊本県で「家庭教育支援条例」が制定されると多くの県や市で条例化しています。その動きの中で、旧統一教会が、各地

の地方議会で法制化を求める請願をし、議員向け勉

Printed by BoltPDF (c) NCH Software. Free for non-commercial use only.